

「経路の編集」

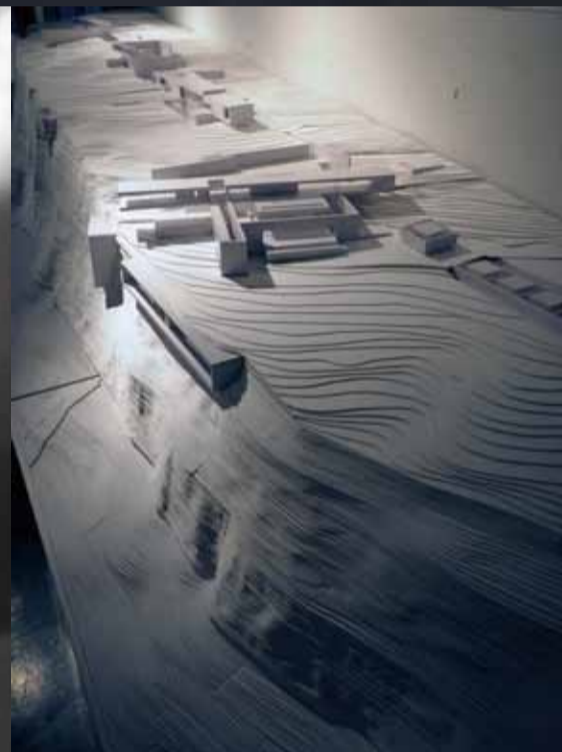
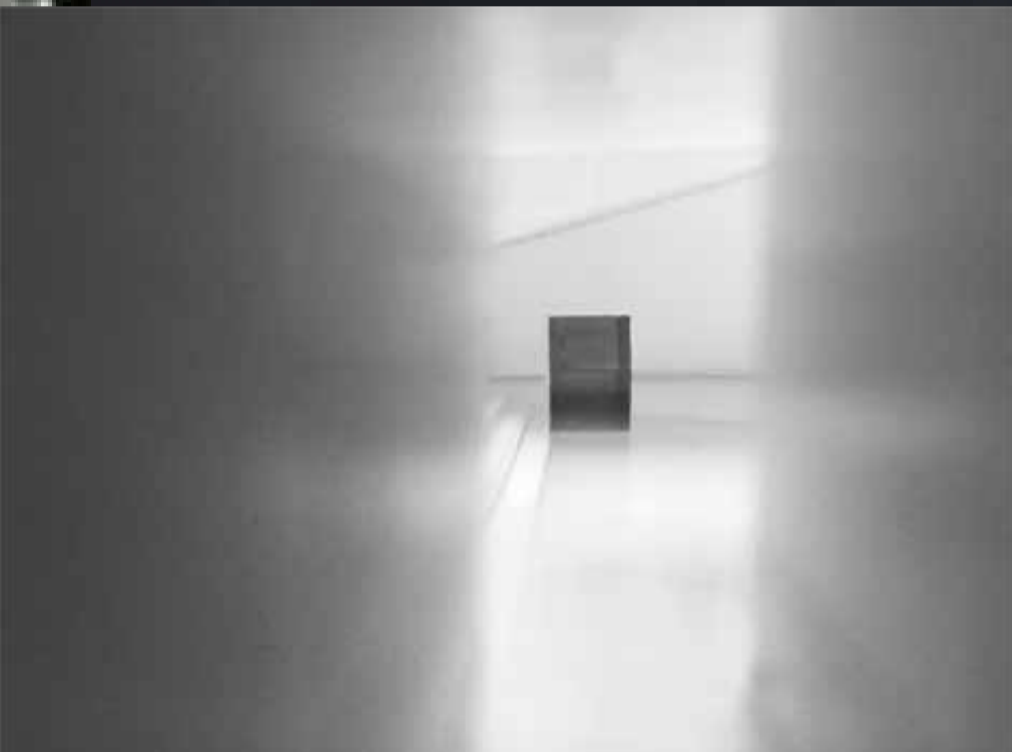
武蔵野美術大学 関 里佳人

1. はじめに

私は、海と山に囲まれた町で育ちそれらはとても身近な存在で上京するまでの18年間には様々な記憶や実体験がある。その中で今でも強烈に記憶に残っている情景がある。町の外れまで車で行くと岬の先端に小さな洞窟があり今では立ち入る事はできなくなってしまったらしいが幼少期に何度か探検した。入っていくと少し薄暗い空間が続き少し不安を抱きながらも進むとその先には海が広がっている。それは、いつも見ているはずの海とは全く表情が違い、格段にきれいに感じた。



温泉施設でのワンシーン、海を先を感じ、地面の中へと下りていくそこには外の空気と光を微かに感じる空間が広がっている。温泉に浸かり溜ったその先に広がる空間...



I. はじめに

時折、「海が見える」「絶景」といった謳い文句をよく目にするが既存する多くの宿泊施設では、ある程度規則的な窓から同じような海が切り取られている。それらの海は、展望台や海岸沿いから眺める海には明らかに見劣りするのではないかと考える事がある。

本研究は、建築というフィルターを通した先にある風景のあり方について考えたものである。

人は時に、その場の感情でもの見え方や感じ方が変わるものだ。幼少期に体験した剥離を抜けた先の海。そこには、不安や緊張 → 開放感という感情の反動が生まれた事によって同じ海でも一層の感動を受けたのだと考えられる。そこで、窓に至るまでの動線計画に緊張感、不安感、期待感、高揚感...。そのような心的・身体的刺激を建築を通して与え、3つの建築的要素によって再編し、様々な海の魅せ方をできないだろうか。

本修士設計は、窓（風景）に至るまでの物語（シークエンス）を設計計画するものである。

II. キーワード

いくつかの事例研究・参考文献より、シークエンスの操作（経路の編集）により身体感覚に影響を与え様々な情景を創造する上で、大きなキーワードとしては、下記の3つの項目に分類できると考え、そこから修士設計・スタディ研究を始めた。

「抑揚・誘引・隠蔽」

III. キーワード概要（抑揚・誘引・隠蔽）

i. 空間の抑揚に感応する身体感覚

空間の抑揚、空間の強弱はおそらく本研究の大きな項目となる。例えば天井が高い大空間から、また同じくらい天井が高い空間に入ったとしても、空間の大きさに関する限りでは、それ程驚きを感じることがないと想像できる。けれど、狭くて小さく、極端に圧縮された空間を通された後、急に大空間の中に入ったとしたら、必ずその大空間に感じる視合いが違ってしまうことになる。それは、空間の大きさの対比のあまりの激しきから起こる感覚である。それは、小さな空間から大きな空間、大きな空間から小さな空間へ向かう場合でも身体的に影響を受けることがすぐにも予想できる。それは、感情の反動が生まれたことによる影響ではないだろうか。

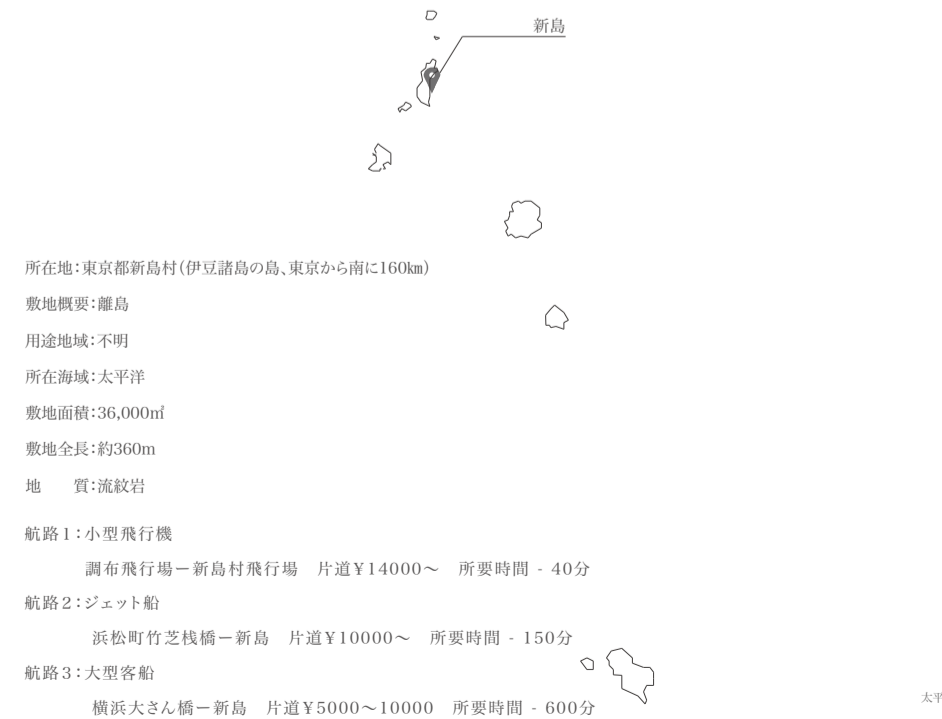
ii. 次の空間へと誘引されるシークエンス

【誘引】： ゆう・いん / 注意・興味をさそって引きつけること。ささいな好奇心。
ゆう・いん / 無意識にも引き込まれる状態・と引き換える。

空間の連続性を意識する事を探ってみると、ある空間から次の空間に誘引される状態が生きている事を見逃せない。前述でも上げた良い空間から、大空間に繋がっている状況を考えてみると、2つの空間の境界には曖昧な領域が意識される。しかし、それは、意識される事であっても、微かに捉えられるものである。そう感じられるのも次に待機している巨大な空間が、視覚はもろろんのこと身体感覚に作用し、無意識にも誘引されてしまうと感じる状態が生まれ、意識が次の空間に向かってしまうことによる。意識して歩を進める空間にも、あたかも自然に誘引されていくかのように設計することが大切になる。これは、次の空間への接合部、接続部、間等へ注目したものである。

iii. 「隠蔽」という操作。

意識的に主要な建築空間を隠蔽し、最後にその姿を見せるという操作、両壁を狭くした通路を通して大空間を設置すること、スロープを配し緩やかに次の階へ移動させるといった、様々なシークエンスの手法が考えられる。それは、実体験や見のやでの体験にも共通している要素であり、レベル差、壁高、立体的なでっぱり、道幅の変化、光量、といった多様な要素で可能な操作といえる。見えそうで見えない次の空間。そして滑る、乗り越える、登るという行為の生まれる操作には、およそ何か感情の抑揚が起こりうると想定される。



所在地:東京都新島村伊豆諸島の島、東京から南に160km
敷地概要:離島
用途地域:不明
所在地域:太平洋
敷地面積:36,000㎡
敷地全長:約290m
地 質:流紋岩
鉄路1:小型飛行機
調布飛行場→新島村飛行場 片道¥14000~ 所要時間・40分
鉄路2:ジェット船
浜松町竹芝桟橋→新島 片道¥10000~ 所要時間・150分
鉄路3:大型客船
横浜大さん橋→新島 片道¥5000~10000 所要時間・600分

東京都新島村 Master's overview_3



東京都新島村 Master's overview_3



敷地航空写真 Master's overview_3

VII. 修士設計概要

1. 工程
基本設計:2015.07.15~2015.11.30
模型制作:2015.11.31~2016.01.07

2. 敷地選定
所在地:東京都新島村(伊豆諸島の島、東京から南に160km)
敷地概要:離島
用途地域:不明
所在地域:太平洋
敷地面積:36,000㎡
敷地全長:約360m
地 質:流紋岩

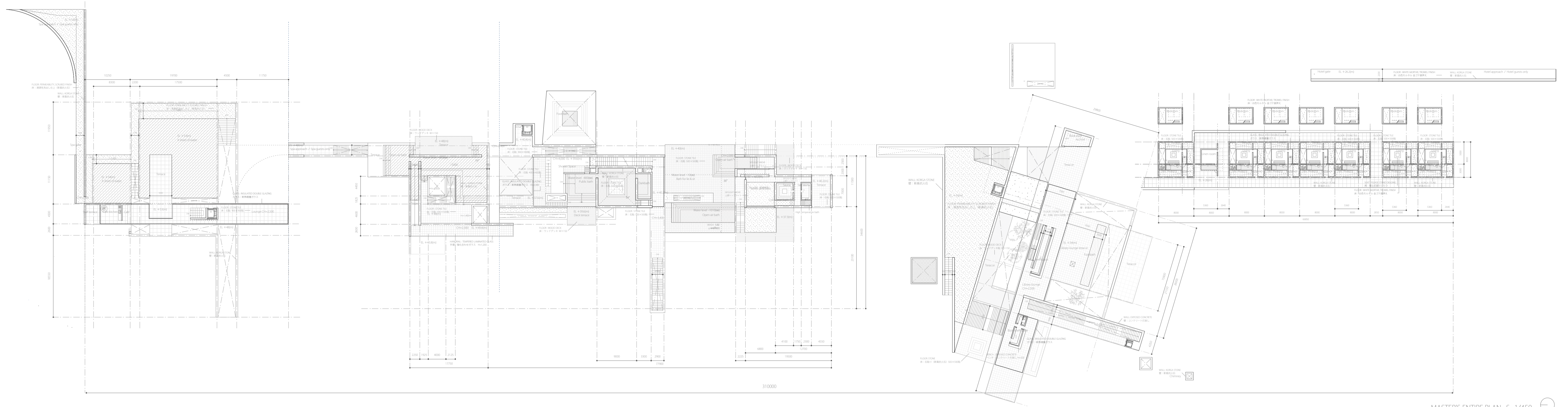
3. 設計条件
構造種別:RC造一部組積造
素 材:コンクリート・扱火石(新島原産) etc
階 数:不明
延床面積:7,784sqm

4. 建築用途
温泉施設兼宿泊施設
・客室 定員 :2~5名 / 50~65㎡ ×8
・エントランス、レセプション、ラウンジ
・レストラン、ダイニング複数(別途バーなど)
・温泉施設(男女別)、貸し切り温泉×1
・温泉施設、スパ、砂風呂(混浴、水着着用)
・散策(全空間含む) ・その他

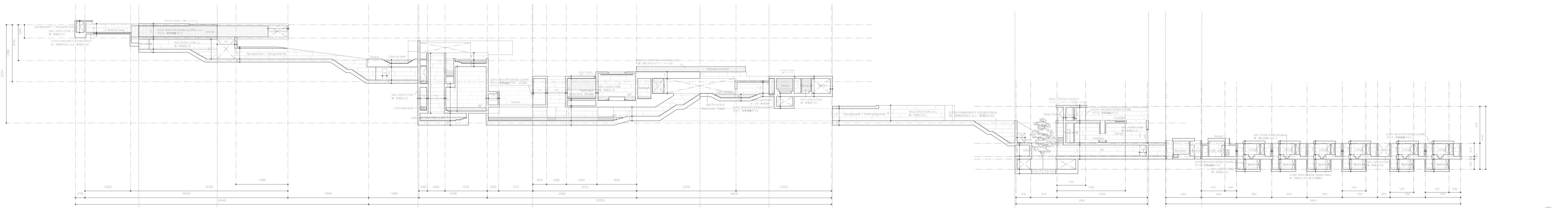
研究文脈:空間・建築・身体 / 大前昌徳 著 Master's overview_3

研究文脈:空間・建築・身体 / 大前昌徳 著 Master's overview_3

研究文脈:空間・建築・身体 / 大前昌徳 著 Master's overview_3



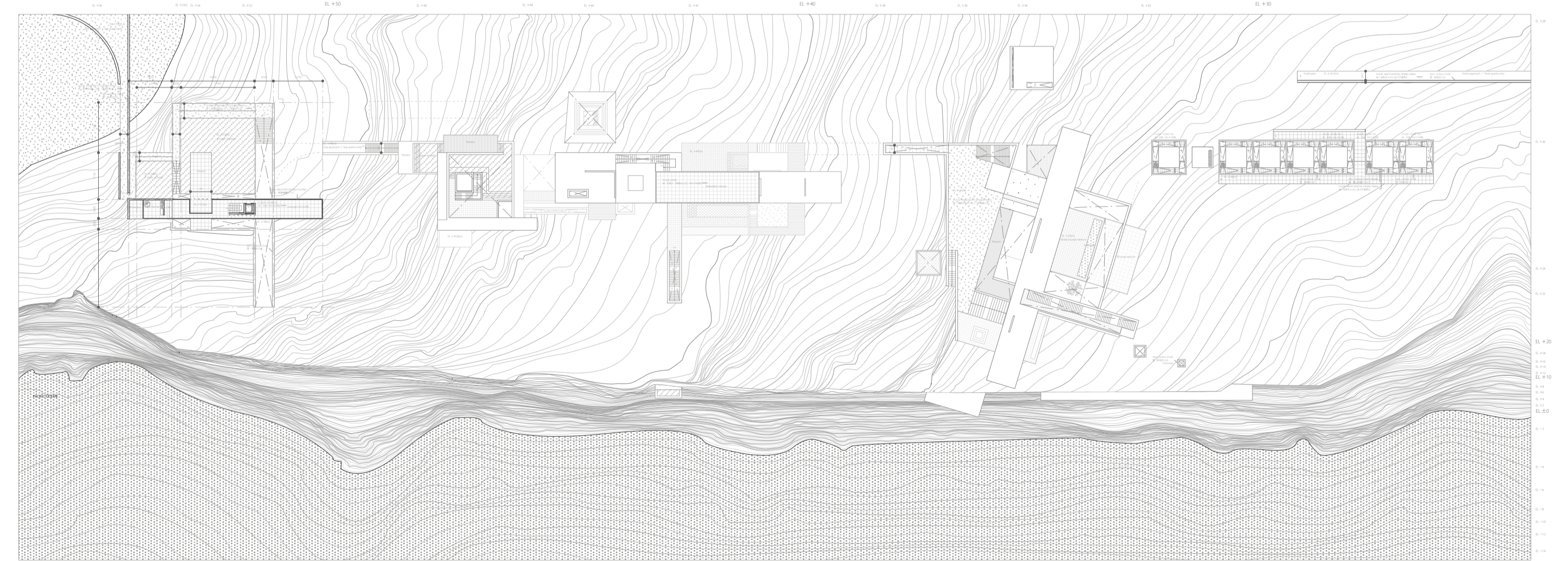
MASTER'S ENTIRE PLAN S=1/450



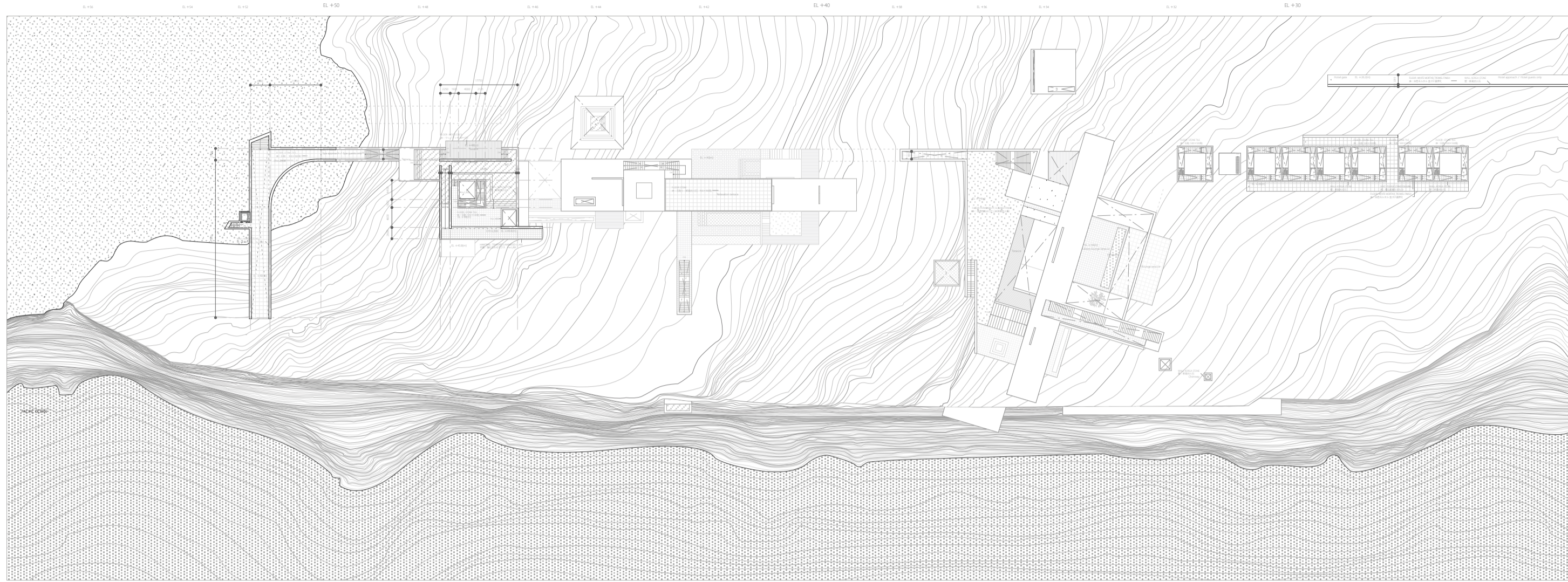
MASTER'S ENTIRE SECTION S=1/450



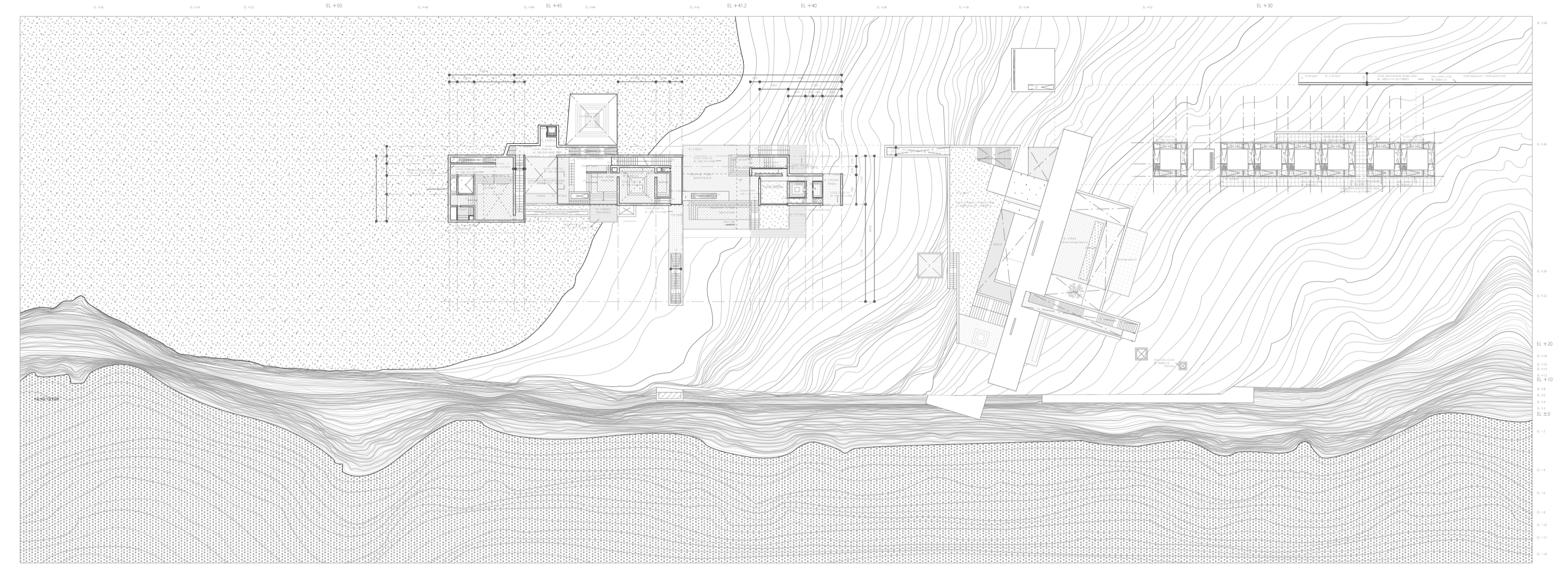
MASTER'S SITE PLAN S=1/950



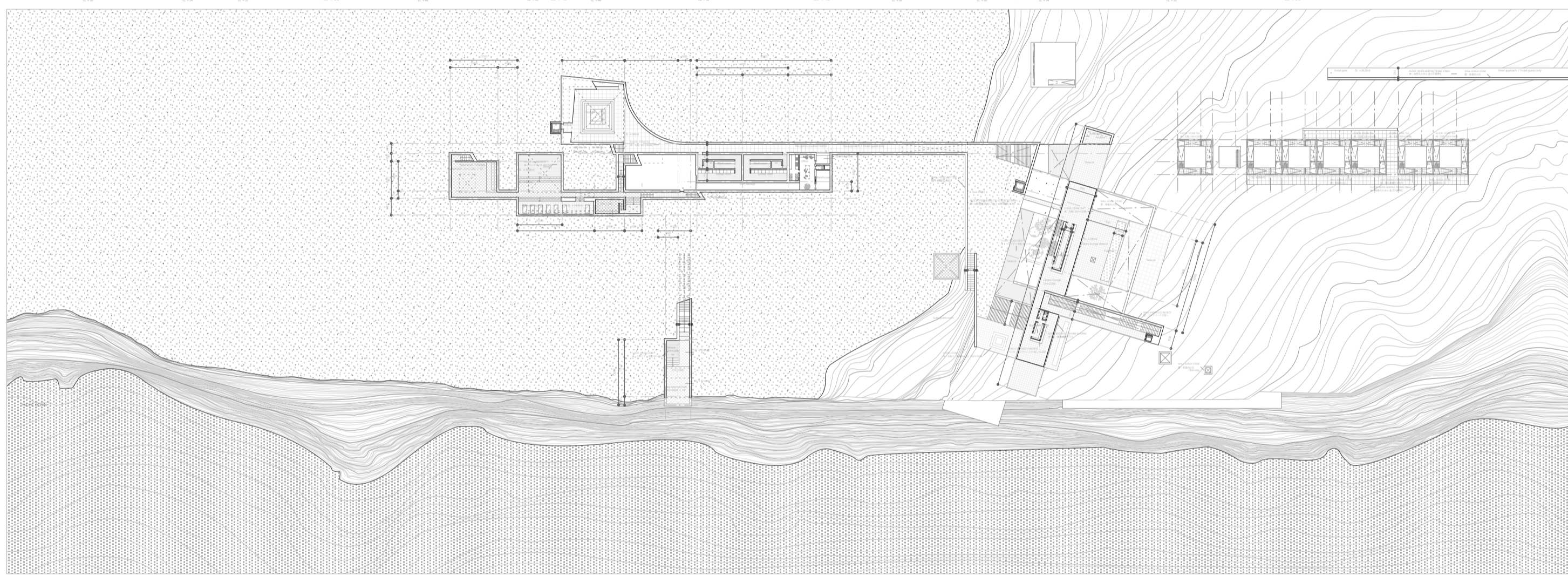
MASTER'S PLAN EL +54.2 (m) S=1/950



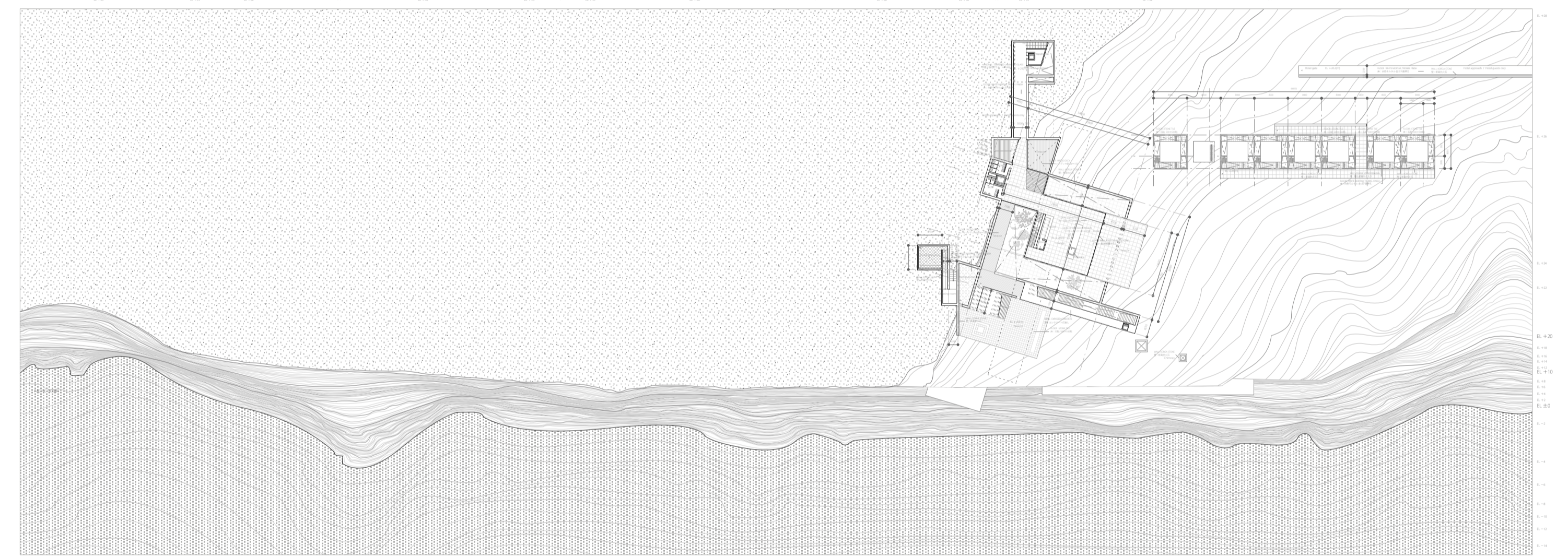
MASTER'S PLAN EL +50 (m) S=1/950



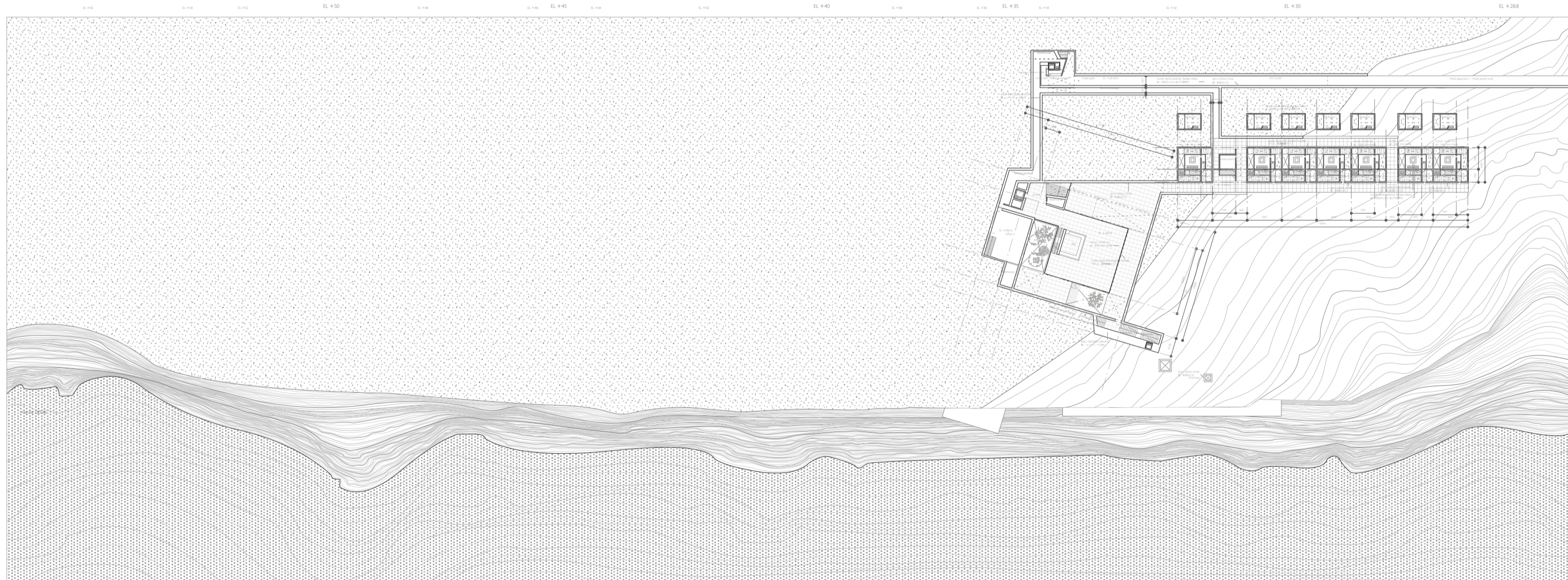
MASTER'S PLAN EL +41.2 (m) S=1/950



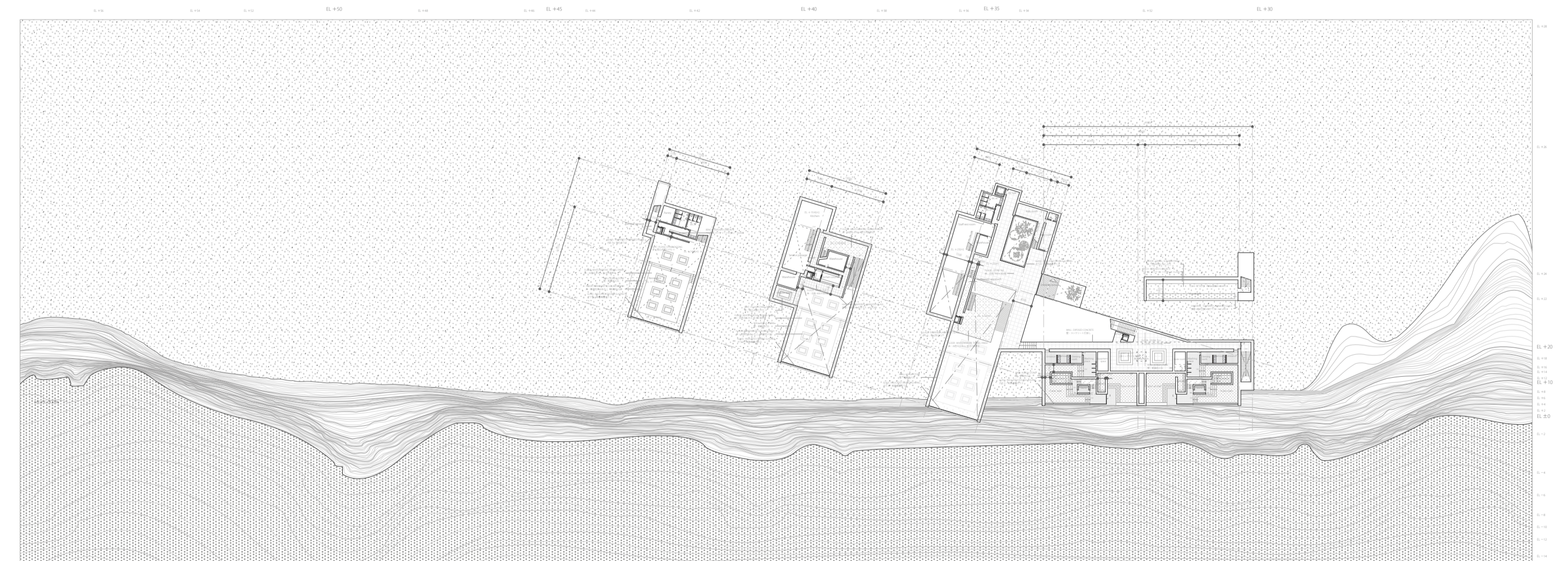
MASTER'S PLAN EL +35 (m) S=1/950



MASTER'S PLAN EL +32 (m) S=1/950



MASTER'S PLAN EL +28.8 (m) S=1/950



MASTER'S PLAN EL +25 (m) S=1/950